

## 平和教育授業研究会（ペグ）第10回

### まとめ資料

予定

- (1) 参加者の紹介・アクティビティ
- (2) 平和形成力についての整理
- (3) 平和教育実践交流「平和教育に関して」
- (4) 平和教育に関する報告
- (5) 平和形成力の育成 ロールプレイ
- (6) 振り返り

#### (1) 参加者の紹介・アクティビティ

○イメージ化

平和を作るとはどんなイメージ 3人グループ 8問

(参考文献：岩川直樹『人はなぜ争うの?』2002)

①あなたが思い描く平和はどんな色?

...

②平和をつくる植物は何ですか(平和な植物)

四つ葉のクローバー、タンポポ、芝生、チューリップ ...

③平和をつくる動物(平和な動物)

(鳩以外)、イルカ、コアラ、羊 ...

④平和をつくる活動する仕事・職業は

国連 ...

⑤平和をつくる仕事・職業は何ですか?

宗教家、国連職員 ...

⑥あなたがつくる(つくれるとして)平和はどんなもの

○ブレインストーミング

⑦: 平和的な国の基準は何だと思えますか?・

#### (2) 平和形成力についての整理

#### (3) 平和教育実践交流「平和教育に関して」

#### (4) 平和教育に関する報告

①上原：「平和ガイド活動からみる戦争体験継承－非戦争体験者によるガイド活動の可能性－」

②幣原：ヒロシマについての平和意識の形成－地域間および日米の比較を中心に－

## （５）平和形成力の育成 ロールプレイ

○ロールプレイ 6人で

1)説明(5分)

2)役割別準備(10分)：各役割ごとに集まり自分たちの役作りを行い、何を主張するかを話し合う。

3)役割討議

①1回目の討論(20分)：名前と出身のごく簡単な自己紹介から始める。

②2回目の討論(15分)：妥協や問題解決を目指す姿勢で話し合う。

4)振り返り(10分)：必ず自分の役やほかの役について感じたこと考えたことをふりかえる時間をとってください。ロールプレイの後、他の人へ感情のしこりが残らないようにします。

論争のポイント：

作る平和の対象がミクロか、メゾ、マクロ、メガか。

平和をつくる行動として、子どもにどこまでの活動・行動を求めるか。

平和形成に、日本の過去の戦争の反省をどの様に関連させるか。

平和教育（平和形成教育）の態度・行動についての評価をどのようにするか。

小・中・高等学校で子どもに「平和をつくる」授業をどのように行うか。

生活密着型①教師A：平和教育は、学校現場を平和的にすることである。

平和形成型②教師B：平和をつくる平和教育を進めていきたい。

好意的 ③保護者A：暴力の連鎖を止め、平和を保つために平和教育が必要。

批判的 ④保護者B：平和教育で行動の仕方を押しつけるのは避けてほしい。

評価重視型⑤教師C：平和教育の学習効果を評価することは難しい。

消極的 ⑥子どもA：平和のために何をしたいよいか分からない。

①教師A：平和教育は、学校現場を平和的にすることです。

○平和教育では日常のけんかや衝突、そうした対立を解決する方法について学びます。

○クラスのいじめを減らして人間関係をよくし、学級の雰囲気改善をはかります。

○子どもの生活習慣が乱れ、自分勝手な子どもが増えています。

○一人一人が自分を大切にするとき、周りの人をも大切にすることができます。それにより、子どもたちが平和な社会をつくることに参加する気持ちを育てます。

○意見が違うときにけんかではなく、対話により解決する態度が大切です。

②教師B：平和をつくる平和教育を進めていきたい。

○戦争を教える平和教育が今まで長くおこなわれており、戦争に反対する子どもたちをつくってきました。

○平和教育では、子どもが受け身にならないように、子どもが平和のための活動を考えるように工夫したいです。

○平和について社会や国語などの教科で学んだことを、「活用する」力を育てたいです。

○国外に目を向け、日本が平和であるという実感を持ち、自分たちにも何かできることはないかという発想につなげていきます。

○開発途上国で医療援助、植林や浄水施設整備の環境保護、農業開発の支援、紛争後の平和構築活動など、平和のための活動に、多くの日本人が活躍していることを、子どもたちに教えたいです。

③保護者A：暴力の連鎖を止め、平和を保つために平和教育が必要。

○祖父母たちが経験した過去の戦争が実際にどういうものだったかを教えて、子どもたちに平和の大切さをわかってほしいです。

○人権が認められ、公正で民主的な社会になることによって、平和はつくられます。

○平和のために子どもたち自身は何ができるか、を教えてください。

○平和教育による暴力の問題解決は、時間は長くかかりますが、友好関係が大切です。

○世界の地域紛争や、テロとの戦いにおいて、武力の行使が効果があったとはいえません。

④保護者B：平和教育で子どもに行動の仕方を押しつけのは避けたい。

○世の中で起こる紛争や衝突において、すべてが対話により解決するわけではありません。

○平和教育では子どもに対して、正義の戦争を認めない平和主義へと方向付けて、特定の考え方に導いています。

○自衛隊によるPKO反対や、ソマリア沖へ海上自衛隊の派遣反対、また日本の戦争加害を平和教育で強調するのは、教師による教え込みとなり、公教育の中立性に反します。

○平和教育では、変化する国際状況に対応するためには、過去の戦争より未来志向的な教育内容が必要です。

⑤教師C：平和教育の学習効果を評価することは難しい。

○平和教育の感想文として、子どもに「かわいそう」とか、「戦争が無くなりますように」と書かせるだけでは、目標達成として充分ではありません。

○学校のカリキュラムに平和教育を入れるのであれば、平和教育の到達目標をはっきり決めて、学習成果を評価する方法を示してほしいです。

○教科（英数国など）で平和について教える場合は、知識をどの程度修得しているかを測ればよいのですか。

○平和教育が目指す態度形成においては、子どものどのような態度を教育成果と見なせばよいですか。

⑥中学生A：平和のために何をすればよいか分からない。

○平和のために何ができるのかを教えてください。

○小学校の時に広島で平和資料館を見学して、「こわいな」「もうみたくないな」という気持ちになりました。

○平和を願っているけれど、平和をつくる力は私にないと思います。どうすればいいか、何をすればいいか、何ができるかがわかりません。

○戦争をするのを決めるには大人だし、子どもには今の日本がどうなっているかは新聞やTVを見ても難しい言葉ばかりで分かりません。

○個人が考えることは一人一人違うから、「平和な社会をつくる」のは難しいと思います。

## 参考文献

岩川直樹『人はなぜ争うの?』大月書店、2002

上原育苗・平原有希 2009『平和を発信する若者たち』平和教育シリーズno.2 京都教育社会学研究室。

ヨハン・ガルトゥング、藤田明史編著 2003『ガルトゥング平和学入門』法律文化社

開発教育協会 2004『開発教育の評価 報告書』

ウィリアム・クライドラー著 1997(原著1994)『対立から学ぼうー中等教育におけるカリキュラム』ERIC

小柏葉子・松尾雅嗣編 2004『アクター発の平和学ー誰が平和をつくるのか』法律文化社

小松太郎 2006『教育で平和をつくるー国際教育協力のしごと』岩波ジュニア新書

篠田英朗 2002「平和構築概念の精緻化に向けてー戦略的視点への準備作業ー」『広島平和科学』24

CR研究会 2008『対立から学ぶワークショップ 報告&アクティビティ』DEAR

高見祥一 2008『平和ミュージアムに行こう』京都教育大学教育社会学研究室

DEAR『もっと話そう! 平和を築くためにできること: talk for peace』2003

平和をつくる17人著 2003『戦争をしなくてすむ世界をつくる30の方法』合同出版

村上登司文 2004「平和教育ー平和を創る人を育てる」『今平和とは何かー平和学の理論と実践』法律文化社

村上登司文 2008『平和形成力を育てようーいきいき平和学習』京都教育大学教育社会学研究室

村上登司文「平和形成方法の教育についての考察ー中学生の平和意識調査を手がかりに」『広島平和科学』28号、2006。

メリーウィン・アシュフォード著、(松井和夫監訳) 2008『平和へのアクション101+2 戦争やテロのない世界の実現に向けて』かもがわ出版

山田満 2003『「平和構築」とは何か』平凡社新書